

Consideration about the research class
"Current status and issues of elementary school drawing and crafts department"
Keisuke Sasaki

要約

本稿は、2021年度後期の発達科学部4年生の科目「教職実践演習(小)」の1コマ90分の図画工作科の研究授業の授業報告である。研究授業の内容は、①高松市や観音寺市の小学校教室掲示作品の鑑賞、②図画工作科の教科としての特徴と課題(講義)、③酒井式描画方法の是非について(討論)、④「こんな図工の授業をしてみたい」(発表)であり、図画工作科の現状について知り、指導の在り方について考えることをねらい(めあて)としている。

キーワード：題材設定 自由度 酒井式描画指導法

Abstract

This paper is a report of a 90-minute research lecture of the Series of Drawing and Crafting, which is a subject of the Senior-level class of the Faculty of Developmental Science in the latter half of 2021. The contents of the research lecture were as follows: ①The appreciation of works posted in elementary school classrooms in Takamatsu City and Kanonji City, ② Features and issues as a subject of a drawing and crafts series (lecture), ③ Pros and cons of the Sakai-style drawing method (discussion), ④ the topic: "I would like to give a lesson in arts and crafts,"(presentation). The aim was to learn about the current state of arts and crafts studies and think about teaching methods.

Keywords: subject setting, degree of freedom, Sakai-style drawing instruction method

1. 研究授業の実施

研究授業及び討議会は以下の日程で実施された。

1. 1 研究授業等の日程

(1) 研究授業

題材：「小学校図画工作科の現状と課題」 (2021年度教育実践演習(小)から)

日時：2021年12月1日(水)第4校時 14:40~16:10

場所：2号館3階2313演習

対象学年：発達科学部4年生 児童教育コース・特別支援教育コース20名

参加教員：発達科学部教員 7名

受理年月日：2022年7月28日 *高松大学発達科学部准教授

(2) 受講生の状況

2018年度入学の児童教育コース、特別支援教育コースの受講生が、これまでに受講してきた図画工作に関する科目は、最大で、1年次に「図画工作Ⅰ－Ⅰ」「図画工作Ⅰ－Ⅱ」（いずれも選択）、2年次に「図画工作Ⅱ－Ⅰ」「図画工作Ⅱ－Ⅱ」（いずれも選択）、3年次に「図画工作指導法研究」（必修）である。

また、シラバスや受講生からの聞き取りから、これらの授業を通して、絵画、彫刻、デザイン等の各分野について主な制作活動や指導案作成を経験しているが、本授業で行う小学生の作品鑑賞の経験はない。

(3) 授業討議会

日時：2021年12月2日（木）第5校時 16:20～17:50

場所：2号館3階2313演習室

参加教員：発達科学部教員 8名（発表者含む）

2. 研究授業の内容

2. 1 本時の授業について

- (1) 題材名 「小学校図画工作科の現状と課題」
- (2) ねらい 高松市や観音寺市の小学校の教室掲示作品等の鑑賞を通して、小学校図画工作科の取組を知り、指導の在り方について考える。
- (3) 授業の位置付け 教職実践演習（小）の全30コマの内の1コマ90分
関係する教職実践演習の事項「4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項」（中央教育審議会答申 H18.7.11 から）
- (4) 本時の具体的な学習内容及び活動
 - ① 本時の学習内容及び活動とねらい（めあて）の提示

めあて 高松市や観音寺市の小学校の教室掲示作品等の鑑賞を通して、小学校図画工作科の取組を知り、指導の在り方について考える。

[内容] ① 小学校教室掲示作品の鑑賞
② 図画工作科の教科としての特徴
③ 酒井式描画指導法の是非(討論)
④ 「こんな図工の授業をしみたい」(発表)

[留意点]
めあてや授業の内容（スケジュール）は板書や掲示物で提示しておく。

図1 板書

[説明] 子どもたちの作品をたくさん見ることはとても大事。小学校の先生は、自分が上手に描けることはさほど大切なことではない。それよりも何倍も子どもたちの作品の良さを認めてあげられる鑑賞力が大事。そのためには、たくさん見ること！

[発問] 教室掲示の作品からどのようなことを見取ることができますか。

特に、絵画コンクールや展覧会に展示された作品との違いを考えてみよう。

子どもたちの作品から
見取るもの → 教師の指導

教師が設定すること

指定
選択
制限

自由度 創造性 個性 感性 表現力

[説明]
教室には全児童の作品が掲示されているため、授業で教師がどのような指導を行ったのかが分かる。それを考えながら作品を見てみよう。

図2 板書

② 高松市や観音寺市の小学校教室掲示作品の鑑賞

ア 高松市の小学校教室掲示

平成 29 (2017) 年度から令和元 (2021) 年度まで間に、高松市総合教育センター研修指導員として学校を訪問した際に、教室に掲示されている作品を撮影したもの。

[提示] PowerPoint 20 シートに、8 校、16 学級の教室掲示作品、及び教科書ページ等



図3 PowerPoint 画面 (一部) (ほか 17 シート)

イ 観音寺市の小学校教室掲示

令和 3 年 7 月・11 月に、学校支援ボランティア派遣校 2 校を訪問した際に、教室に掲示されている作品を撮影したもの。

[提示] PowerPoint 23 シートに、20 学級の教室掲示作品



図4 PowerPoint 画面 (一部) (ほか 20 シート)

③ 図画工作科の教科としての特徴と課題（講義）

- [発問] ・学習指導要領から図画工作科の目標を確認しよう。
 ・教科としての成立の要件を考えてみよう。
 ・授業時数をみてみよう。

図画工作科の目標

【平成元年告示】
 表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てるとともに**表現の喜びを味わわせ、豊かな情操を養う。**

【平成10年告示】
 表現及び**とともに造**

【平成20年告示】
 表現及び**を味わうよ**
豊かな情操
幼稚園教育要領

教科とは

教科とは、学校で教授される知識・技術などを内容の特質に応じて分類し、系統立てて組織化したものである。
（今野喜清・新井郁男・児島邦宏編『新版学校教育辞典』教育出版株式会社、平成15年より抜粋）
文部科学省HPから

教科について法制上定義がなされている訳ではないが、一般的に、
 (1) 免許（中・高等学校においては、当該教科の免許）を有した専門の教師が、
 (2) 教科書を用いて指導し、(3) 数値等による評価を行う、ものと考えられている。
平成20年1月中教審答申の脚注（抜粋）文部科学省HPから

小学校標準授業時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	306	315	245	245	175	175
社会	-	-	70	90	100	105
算数	136	175	175	175	175	175
理科	-	-	90	105	105	105
生活	102	105	-	-	-	-
音楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家庭 週 当たり	1	-1	-1	7	-	60
合計	102	105	105	105	90	90

図画工作科の授業時間数

実施年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
昭和33年～	102	70	70	70	70	70
昭和55年～	68	70	70	70	70	70
平成14年実施～	68	70	60	60	50	50

標準授業時数は、下回っても法令違反とはならないが、年度当初から

科（地理、工、文芸、を~~発展~~させ、・・・
典 小項目事典

図5 PowerPoint画面（一部）

- [発問] 教科としてどのような特徴があるのだろうか？
 そうした特徴から、教科としてどのような課題が考えられるだろうか？

図画工作科に示された内容は、極めて抽象的で、どのような教材を取り扱うかについては現場教師に委ねられている。

この教材（題材）設定の自由度の高さが、教師の教材研究の意欲を高めるという一方で、様々な問題も生み出している。

同じ芸術教科の音楽では、各学年の歌唱教材で共通教材が示されている。（以前は鑑賞教材も）

図6 PowerPoint画面（一部）

④ 酒井式描画方法の是非について（討論）

- [発問] 酒井式描画指導法とは、描くもの（テーマ、場面）、描画材料・用具、描き方（描く順番や絵の具の使い方など）を指示されたように描くことで、ほとんどの子どもたちが技術的に高いレベルの作品を仕上げることができるというものです。
 そのため、現場の先生方に支持され、多くの図書が出版されています。
 一方で、みんな同じような絵になることで批判も受けています。
 みなさんはどう考えますか。

- [提示]
- ・酒井臣吾氏のプロフィールや出版されている図書
 - ・酒井式による人の体の動きの描き方や作品を紹介
 - 「シャボン玉」「セロ弾きのゴーシュ」「愉快的な自画像」など
 - ・県内の小学校に見る「〇〇式」で描かれた作品
 - ・一つ一つ丁寧に描く順番を指示して描かせた自画像（佐々木が園児に実践）
 - ・1975年に松本キミ子が提唱した「キミ子方式」による作品
 - ・戦後、大阪から始まり全国に広まったクロッキーの1本線描法の作品



図7 PowerPoint画面(一部) (ほか16シート)

[討論] 酒井式描画指導法に賛成ですか？ 反対ですか？

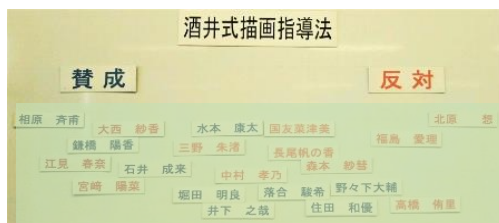


図8 板書(イメージ)

賛成か反対かについて、ホワイトボードに自分のネームプレートを貼り、意見のはっきりしている両サイドに近い学生から理由を発表させた。

⑤ 「こんな図工の授業をしてみたい」(発表)

時間がなくなり、学生たちの思いを発表してもらえなかった。(ワークシートに記述させた)

(5) 配布資料

- ・演習用資料 A4 (裏表) 5枚 (主に PowerPointのスライドを抜き刷りしたもの)
- ・ワークシート 設問が4点

2. 2 学生たちのワークシートの記載

① 高松市や観音寺市の小学生の作品を鑑賞して、印象に残った作品（教材）やその理由など、感想を書いてください。

- 太田南小学校の彼岸花を廊下に掲示しているのが良いなと思いました。教室だけの掲示ではなく廊下にも掲示することで学校全体がアートになり楽しいと思います。(女子)
- 彼岸花が廊下に飾られている作品は、本当のお花畑のようで、とてもきれいだった。私が保護者として授業参観に行ったら絶対写真に撮るなと思いました。子どもたちも学校や教室にワクワクと楽しく明るい気持ちで行くことができると思いました。(女子)
- 「まぼろしの花」という作品が心に残っています。絵の具に白い粘土を混ぜてダンボール紙に自由にのびのびと表現されていて、個性があってキラキラしているように見えました。(女子)
- 私が一番やってみたくと思ったのは「ひみつのたまご」だった。子どもたちの様々な世界観を感じることができた。図工は、やっぱり上手さを評価するよりも楽しんで取り組む姿を評価すべきであると改めて実感した。また、教室を明るく楽しくするために教師の熱意と技量が求められると感じた。(女子)
- 太田南小1年の「彼岸花」の作品は、緑と赤の2色だけを用いて、変化をつけながら、絵の苦手な子も楽しくできると思った。円座小学校1年の「ぺったん コロコロ」は、ローラーを転がすだけの簡単な作業を通して、色が重なったり混ざったりする面白さを感じられる。太田南小3年の「ジャックと豆の木」は、全員が同じ色を使い同じ描き方をしているにもかかわらず、それぞれに個性が出ていて見ごたえがあった。(女子)

② 図画工作科の教科としての性格や特徴から、どのような課題があると思いますか。

- 各学校によって図工に対する取組に大きな差が生まれる。技能教科ということもあり国語や算数と比較し、軽視してしまうというのは少なからずあるのではないか。(男子)
- 自由度が高いからこそ教員によって差が大きくなるという課題があると思います。経験が乏しかったり、これといった指導法を持っていなかったりする教員は、子どもたちに多様な経験をさせることができないと思う。(男子)
- どのような教材を取り扱うかが現場の教師に委ねられていることから、熱心に取り組んでいる先生は、研究して、楽しく充実した授業をしようとするが、図工に力を入れない先生は「描かせておけば、つくらせておけばいいや」と、ないがしろになってしまう。そして学級差や学年差、学校差が生まれる。(女子)

③ あなたは「酒井式描画指導法」に賛成ですか、反対ですか？

【ア. 賛成】

- 絵を描くことが苦手な児童にとってはとても良いと思う。私自身が絵を描くことが苦手で、教室に掲示されるたびに劣等感を感じてきた。そんな子どもが「自由に描いて」と指示されても描くことはできない。学習指導要領の目標も達成できるだろうか。そのためにある程度の枠組みをつくることは子どもたちのために教師として必要だと思う。その中で個性を生かすための工夫は多くあり、子どもの実態や希望に応じて枠組みの大きさを変えたいと思う。(男子)
- 絵が苦手で図工が嫌いだった私からしたらとても嬉しい。上手でない絵をうしろに貼られて悲しい気持ちになったことがある。(女子)

【イ. どちらかといえば賛成】

- 絵を描くことが苦手な児童は、何もない状態で「絵を描きましょう」と言われると、どうすればよいか分からずに困っている姿を見た（学校支援ボランティアや教育実習で）。みんなが、その子なりの絵が描ける様にするためにも、ある程度の枠組みを与える必要があると思う。でも、すべてを教師が決めてしまえば楽しくないし、表現活動にならないと思うので、指導の実態に応じて指導を工夫することが大切だと思う。(女子)

- 絵の苦手な児童でも高いレベルの作品づくりができることで自己肯定感が高まる。一方で、得意な児童は自由に描きたいと思っているのに制限されることで、やる気がなくなってしまうかもしれない。(女子)

【ウ. どちらかといえば反対】

- 苦手な子どもが描きやすいといった良いところがあるけれど、それは「画工が楽しい」経験に本当に繋がるのかなと思う。下手でも先生や友達が褒めてくれた経験の方が「画工が楽しい！」と思うきっかけに繋がると思った。(女子)
- 私は画工が苦手であった。自分の作品が他の人よりも劣っていると感じていたからである。当時の私であれば、指示されて描くことに安心感するだろうし、最低水準は確保されそうである。しかし、本来であれば、見ることができたはずの「子どもらしさ」や「その子らしさ」が出にくいという意味で、どちらかと言えば反対である。(男子)

【エ. 反対】

- 子どもの絵は「こうあるべきだ」と先生が決めつけてよいものなのか。その子の感じたことやその子らしさ、その時の年齢だからこと描ける作品があるのにその可能性を潰してはしまわないか。(女子)

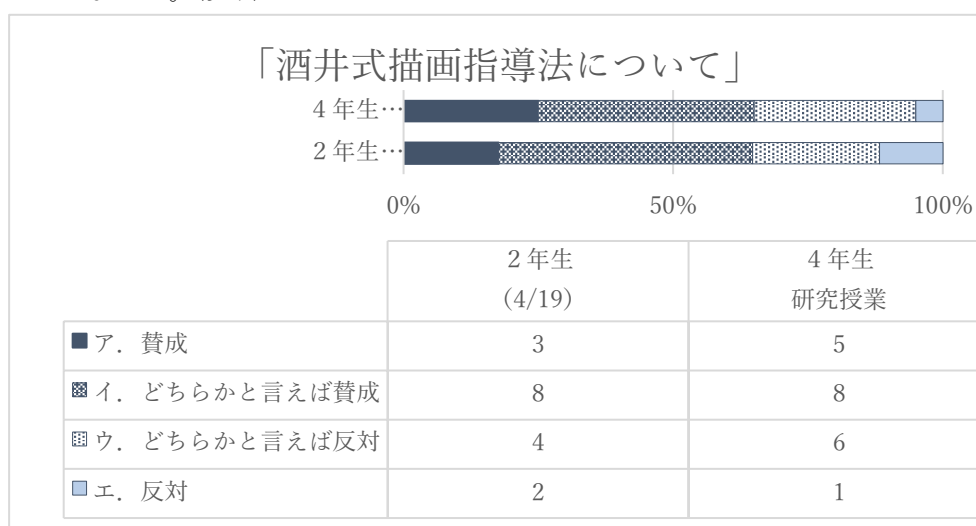


表1 酒井式描画指導法アンケート回答結果

④ 小学校の先生になったら、どんな画工の授業をしてみたいですか。

- 「筆じゃあなく、歯ブラシや指を使ったら?」「ローラーやスポンジを使ったら?」など、塗ること一つでも自分のイメージに合う用具を選択できるようにしたい。低学年のうちから、造形遊びを通じて様々な素材に触れ、児童のひらめきやアイデアの引き出しをたくさんつくっておく。私自身は画工が大好きなのですが、「絵が上手い先生」より「いろいろな体験をさせてあげられる先生」になりたいです。(女子)
- 私は小学校時代から皆と同じように絵を描くことができず辛かった思い出があります。この経験からも酒井式を取り入れるなどして、絵の苦手な子にも「皆と同じように描ける」と自信を持たせてあげたいと思います。(男子)
- 自分自身が絵を描くことが苦手なため、苦手な児童の気持ちがよく分かる。そのことをしっかり生かしたい。大事にしたいのは「画工って面白いな!楽しいな!」と感じてもらえるような授業にしたい。上手に色が塗れる、うまく描けるということもよいが、それ以上に児童が様々な技法を使いながら楽しく活動することや友達作品のよいところに気づき、自分の作品に生かそうとする態度を評価したい。(男子)
- 絵の苦手な子どもに上手な絵やきれいな絵を描かせようとするのではなく、生き生き、のびのび、元気いっぱい絵を描かせてあげたい。そのために「自分にも描けそうだ」「描いてみたい」と思うような作品をいっぱい見せてあげて、選択肢を広げてあげたいと思う。こうすることで、それぞれの個性が発揮され、自分に合った、自分なりの作品づくりができ、「画工が楽しい・好きだ」と感じてくれると思う。(女子)

図9 学生たちのワークシートの記載(抜粋)

3. 授業検討会及び参加者からの意見（参観記録を含む）

3. 1 参加者からの意見

(1) 授業を積極的に評価できる点

① 教育内容

- 高松市と観音寺市の小学校に掲示されている作品を通して、図画工作科の教科としての特徴や課題が解説されました。まもなく卒業し、教育現場で指導する立場になる学生にとっては、教職実践演習の教員養成課程における位置づけに鑑みて適切な内容であったと思います。
- 小学校図画工作科の現状について、県内小学校における学校掲示・教室掲示されている児童作品を見せながら理解させることは大変効果的であった。
学生は、自分の将来と結びつけながら高い興味と関心をもって、主体的に授業に参加することが出来ていた。
- 小学生の作品をスライドで鑑賞し、的確にコメントを与え、その作品のよさや特徴をとらえられるようにしていた点。大変興味深く鑑賞することができていた。
- 「子どもの作品を見ることの重要性」について伝えていたこと
作品展などの展示だけでなく、廊下や教室などの日常的に学校内に掲示されている子どもの作品を多数見ることの重要性について話されていた。講義内で「視覚、目の記憶で蓄える」と話されていたが、作品を見ることは、自分自身の「色や形に対する感性」を養うことに繋がる。まだ現場に立っていない学生たちにとって、今後教員になってから、自分が指導する際に作品を考えるヒントにもなり、また現在の図画工作科の現状を知る手がかりにもなる。学生たちが今後学校を訪れた際には、掲示物等に意識を向けることができるだろうと感じた。
- 「図画工作科の教科としての特徴と課題」について説明していたこと
図画工作科の教科としての変遷や特徴等について説明したうえで、生じる課題について考えさせていた。図画工作科の教材設定の自由度等について考えていくなかで、自らが教員になった際の役割や責任等についても考えることができると感じた。
- 「技術指導と個性」について考えさせていたこと
技術指導の方法について具体的に説明したうえで、学生自身に、「技術の指導法を取り入れることの是非」「技術指導は個性を阻害するのか」等について考えさせていた。
図画工作科の目標を踏まえたうえで、どのように授業を展開するのか、教員になる日が近い学生たちが、考えておくべき内容であると感じた。

② 授業方法

- 実際に学校を訪問した際に撮影してきた写真をパワーポイントでスクリーンに投影しながら授業を進めていたので、学生には、先生の指導内容が具体的に伝わったと思います。学生たちは、学校支援ボランティアや教育実習で教育現場は経験していますが、教育現場の経験は限定的ですので、先生が「圧巻！！」として紹介した事例は、とても良い刺激になったことと思います。
- 県内小学校における図画工作の児童作品をふんだんに画像で紹介しながら解説を加えたことで、学生は鑑賞の仕方、指導の仕方について理解を深めたと思う。また、酒

井式描画指導の是非について自分の考えをもたせることで、望ましい指導法について考えを深めることが出来た。

- ワークシートに書かせた後、学生からの発表をうまく引き出せるように工夫されていた。指導の在り方について、酒井式描画指導法を紹介して考えさせる授業は大変興味深く感じた。
- 授業の流れを最初に明確に提示していたこと
本時の授業内容を最初のスライドで明確に示して説明しており、学習の見通しを持つことができた。
- 現在の小学校の教室展示等の写真を多く提示していたこと
過去のものや他県のものではなく、現在の香川県内の作品を多く写真で紹介していた。今の図画工作の現状が分かりやすく伝わってきた。そのような作品指導を春からは自分自身がおこなうという意識を持って、学生たちも興味深く見入っていた。専門的な知識や技術はなくても、並んだ作品を写真で見ると、子どもの作品の素晴らしさやまたそれを支える教師の指導・準備等について、自ずと考えることができると感じた。また、写真の作品から、さまざまな技法や作品案を学ぶことができると感じた。
- 課題を個々に考えた後、数名に発表させて共有していたこと
4年生であることもあり、どの課題についても、個々にしっかりと考え、感想や意見を持てているようだった。そのうえで、他学生の意見を聞く機会を設け、自分とは違う考え方に気付いたり別のとらえ方をしていたりすることに気付けるようにしていた。
- マグネットを使用した意見の提示や意見交換
履修学生一人ひとりの氏名が示されたマグネットの教材を使用していた。それらを用いて、賛成・反対などの意見を聞き出し、全体で共有できるようにしていた。今回の課題では、賛成・反対という意見だけでなく、「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」のように、多様な考えがでてくることが予想される課題であったので、マグネットを貼る位置で、どれくらい賛成（または反対）かを示せることは大変重要であったと感じた。

③ その他

- 先生が授業をされている様子は、とても情熱的で、教育活動に対する思い、学生に対する思いが伝わってきました。参観者としての授業参加ではありましたが、お話に引き込まれる思いがしました。

(2) 授業の改善にかかわる点

① 教育内容

- とても盛りだくさんの内容が用意されており、そのために一つ一つの活動が時間不足となっていたようです。ただ、学生たちがこれまでに履修してきた図工教育に関する科目の内容から、これだけの内容を詰め込まなければならなかった理由もうなづけます。

② 授業方法

- 本学によく見られる学生は、ややもすると物事を表面的にしか受け止めず、深く、また、多角的に考察することなくわかったつもりになりがちかと思えます。それは、ある意味では、学生の素直さに由来するものかと思えますが、指導者になる身としての思考力や批判精神を身につけて欲しいと思っています。学生が意見を述べ、また、意見を戦わせる時間がもっとあれば、学生の気づきや納得的な理解をもっと引き出せたかなと感じました。
- 酒井式描画指導の是非についての討論や、「こんな図工の授業をしてみたい」の発表が、時間不足で十分に出来なかったことが残念である。豊富な作品提示と解説の在り方を工夫することで時間短縮が出来たのかもしれない。
- 時間の制限もあったので、進め方が難しかったのではと感じた。時間があれば、学生たちの図画工作への思いや体験談などを共有し、「技術指導と個性」についての議論ももう少し深められたのではないかと思う。それらの議論を踏まえたうえでの、「どんな図画工作の授業をしたいか」という問いへの回答は大変興味深いものである。今回は課題となったが、授業内で発表したりグループで検討したりできるとなるとお良かったと思う。

③ その他 特になし

(3) 授業全体の感想

- 「現代美術を見て『何じゃこりゃ』と思う人は子どもの絵の指導ができない」とおっしゃっていましたが、小学校の先生にはなれないと早々に諦めた自分は正解だった・・・と感じました。
いまでも現代美術はわかりませんが、見ていて落ち着くか否かで作品を見ています。
ところで、先生がおっしゃっていたように、教員養成課程において適切な学習内容が保証されているかどうかと言うと、疑問を禁じ得ないところがあります。これは過去においてもそうで、それに対する国の不信感が教員養成コアカリキュラムの策定につながっているかと思えます。
- 子どもが作品づくりをする際、いくつかの方法を知っていることは極めて重要なことと感じました。そのような指導ができるよう、教員が研鑽を積み引き出しを増やしておくことが必要なのだと思います。
- 授業のテンポが良く、楽しく話を聞くことができた。あっという間の 90 分であった。指導の仕方一つで子どもたちの作品のできは大きく変わることができました。
- 佐々木先生の図画工作、美術指導への熱意が伝わってくる授業でした。学生たちもその思いを感じとっていたと思うので、きっと教員になって図画工作科の授業を考へるときには、佐々木先生の授業内容を思い出すと思います。幼児教育においても実践できそうな技法等を多数知ることができ、私自身も大変勉強になりました。また、幼児期の造形活動についても、改めて考える機会となりました。
- あらかじめお知らせいただいたテーマや学習課題からは、想像もつかなかった面白く興味深い内容で、体育科の運動嫌いと同じ構造を持っていて、教科として考えなければならぬ課題が詰まっていた。

3. 2 参加者からの意見に対する総括的コメント

研究授業及び研究討議会に参加された先生方のご意見に対して、教育内容と授業方法に分けて省察を述べたい。

(1) 教育内容について

- 高松市と観音寺市の小学校に掲示されている作品を採り上げたことは、次の理由からその意義を大いに認めていただいた。
 - ・ 大学から数キロ先の小学校の教室に掲示されていた児童たちの作品には、ネット上で拾ってきた作品にはない、まさに授業者が実際にその場に出向き、撮影したという現実感（リアリティー）がある。
 - ・ 展覧会に出品された作品は多少なりとも特別に仕上げられた1点であるが、教室に掲示されたクラス全員の作品は、教師が児童たちにどのような指導を行ったのかを見取ることができる。
- 作品を見る観点を明確に示したことも、4月から図画工作科を指導する立場にある学生たちにとって真剣に見る動機となった。具体的な見る観点は、おおよそ次のとおりである。
 - ・ 作品鑑賞は、作家の作品であれ、子どもたちの作品であれ、作者を問わず共通する見方は「作品から作者の思いや願い、工夫点など、作品のよさや美しさを想像力を駆使して感じ取る」ことである。そのことに加えて、教師が作品を見る場合は、絶えず「教師がどのような指導をしたのか」を考えながら見る必要がある。
 - ・ すなわち、①描くもの（テーマ、場面など）、②描く材料・用具など、③描き方（絵の具の使い方、描く順など）の決定における教師の指示や制限がどの程度、行われたものなのか、教材設定における自由度の高さを見取らなければならない。
 - ・ 作品鑑賞後に議論の場を設けた「酒井式描画指導法」は、①②③のすべてを教師が細かく指示するものであり、この方法によらずとも、教師が描き方等を具体的に指示したりしている作品は少なからず見受けられる。
- 受講した学生たちのうち10名は、来年度から小学校教員となって、図画工作科の授業も受け持つこととなるが、そのためにも、小学校図画工作科の現場での取組を知り自らの指導の在り方について考える必要がある。

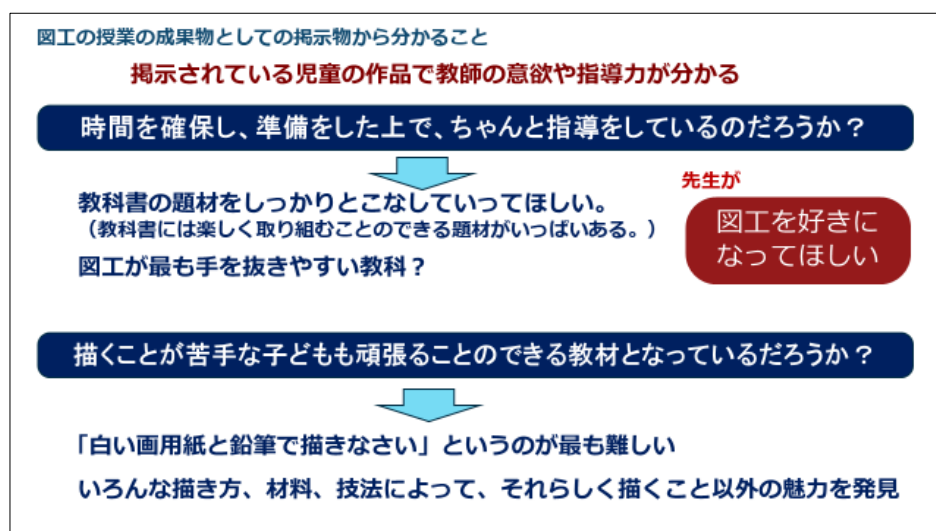


図 10 授業の最後に提示した PowerPoint の画面

(2) 授業方法について

- 本研究授業では、小中学校は当たり前のように行われている基本的な授業スキルを意識して取り入れたが、参観された先生方にも気付いていただけた。
 - ・ 本時の学習課題（めあて）や学習予定（流れ）の提示は、ユニバーサルデザインの考え方に基づく観点からも、一過性のある PowerPoint で提示するだけでなく、ホワイトボードに板書しておいた。
 - ・ 「酒井式描画指導法」の是非をめぐっての討論では、各自で考えをまとめ、「ア．賛成」「イ．どちらかと言えば賛成」「ウ．どちらかと言えば反対」「エ．反対」の4択で、個人のネームカード（裏面に板磁石を貼付）をホワイトボードに貼ることで意思表示をさせ、その理由を発表することで意見交流をさせた。
- 参観された先生方の誰もが、中心的な学習となるべき「酒井式描画指導法」の是非をめぐり討論の時間が短く、議論の深まりが得られなかったことを残念がられた。

教育実践演習（小）の1コマ90分で行う授業として、学習内容が盛りだくさんすぎたことが理由として挙げられる。

「酒井式描画指導法」に対する学生たちの肯定・否定の割合は、私が担当した2年生の「図画工作Ⅰ－Ⅰ」におけるアンケート調査でも、ほぼ6：4と大きな差がなかったことから、互いの意見を戦わせやすい格好のテーマである。

その上で、研究討議会での先生方の助言からも、次のような方法も取り入れることができると考えた。

 - ・ 最初の段階で、賛成か、反対かの意思表示をさせ、自分とは異なる意見を聞くなどして、考えに変化はなかったのか尋ねてみることもよい方法である。
 - ・ 賛成か、反対かの意思表示をさせる前に、長所（利点）と短所（欠点）を挙げさせ、それらを板書するなどしてしっかりと理解したうえで、意思表示をさせる方法もあった。
 - ・ 賛成派、反対派のそれぞれのグループに分かれて意見を集約し、その上で議論し合えば、もっと深まりがあったのではないか。
 - ・ 専門家の意見を伝え、その意見を皆で吟味するという方法もあった。（研究授業では用意していたが提示しなかった。）

4. 今後の課題及び取り組み

4. 1 「教育実践演習（小）」「保育・教育実践演習（保・幼）」への造形関係授業の実施

本年度、「保育・教育実践演習（保・幼）」（4年）においても、2コマいただき、同様の授業を行った。なぜ、4年生でこうした保育・教育現場での幼児・児童の作品を鑑賞する教材を取り入れているかという点、本年度の4年生は、シラバスや学生からの聞き取りによると、入学以降これまでの造形に係る授業で、こうした幼児・児童の作品鑑賞の経験がなかったからである。

なお、現在、2年生では私が担当する「保育内容－表現Ⅰ（必修）」や「図画工作Ⅰ－Ⅰ（必修）」では、現場での幼児・児童の作品鑑賞を積極的に取り入れているため、2年後の教職実践演習では、新たなテーマを設けるなどして内容・方法を工夫しなければならないと考えている。

4年生（2019年度入学生）の入学以降の造形や図画工作に係る科目は下表の通りであり、私以外の教員が担当した。

年度	年次	幼児教育コース	児童教育コース
2019年度	1年次	造形表現Ⅰ（必修） 造形表現Ⅱ（幼は必修、保は選択）	
2020年度	2年次	保育内容－表現Ⅰ（必修）	図画工作Ⅰ－Ⅰ（必修） 図画工作Ⅰ－Ⅱ（選択） 図画工作Ⅱ－Ⅰ・Ⅱ
2021年度	3年次		図画工作指導法（必修）

表1 4年生（2019年度入学生）の造形や図画工作に係る科目

また、2021年度の教職実践演習（小）の内容は【資料1】のとおりである。

4. 2 指導力向上における作品鑑賞の意義と児童作品の収集

学習指導要領での図画工作科の内容は、「A表現」と「B鑑賞」に分けられている。

まさに本稿の授業は「B鑑賞」の授業であったが、私は、小学校の先生にとって必要な能力は「上手く描けること」よりも「作品のよさや美しさを感じ取ることができること」であると考えている。むしろ「上手に描けない」先生の方が、図工が苦手な児童の気持ちがよく分かり、教材や指導の工夫もなされている場合も多いのではないかと思う。

まさに指導者にとって必要な力は「表現力（かく、つくる力）」よりも「鑑賞力（見る力）」である。このため、現場教員に対する研修や、保育者・教員養成学部における授業も、「ものをつくったり描いたりする研修」に偏ることなく、「作品を見る研修」も充実し、バランスよく両者の能力を育むことが大切である。

そのために指導者は、絶えず作品収集に努める必要があるが、実物での収集は子どもたちに返却することから、画像での収集となる。そして、収集する作品画像については、次のような理由から、普段の図工の授業で生まれたクラス全員の作品が望ましい。

- 教室に掲示されたクラス全員の作品には、教師の指導が包み隠さず作品に表れるため、指導者がどのような指導をしたのかを見取ることができ、そのため、それらを見ることは、教師の指導力の向上に極めて有効な手段である。

展覧会に展示された作品は、作品づくりのために特別な指導がなされている場合も見受けられる。また、研究発表会での授業や会場に掲示されている作品についても、普段の授業よりも丁寧に時間をかけて指導された作品であることが多い。

- ネット上や図書に掲載されている作品は解説が掲載されていることもあることから、多くのことを学ぶことができる。しかし、実物を知らないため、ディテール（細部）が分からなかったり、解説に誇張や脚色が疑われるものもあつたりする。

なお、作品収集の方法としては、今後も様々な機会を通じて学校を訪問し、教室等に掲示されている作品を撮影し、学生たちに授業を通して鑑賞させたい。

4. 3 保育者・教員養成学部における造形に係る授業の在り方

(1) 図画工作科の教材設定の視点

本授業で学生たちに考えさせたかったことは、幼稚園・保育園での造形活動、小学校での図画工作科だけでなく、ワークショップ等、すべての制作活動において、教材内容を決定する際に共通する視点は、例えば「描くこと」においては、①描くもの（テーマ、場面など）、②描く材料・用具など、③描き方（絵の具の使い方、描く順など）をどう設定するか。教師がどこまで決めるのか、制限するのか、選択させるのかといった「教材の自由度」である。

この「教材の自由度」について、筆者は以前、中学校で美術教育を担当としていた時、以下のような関係図を作成したことがある。

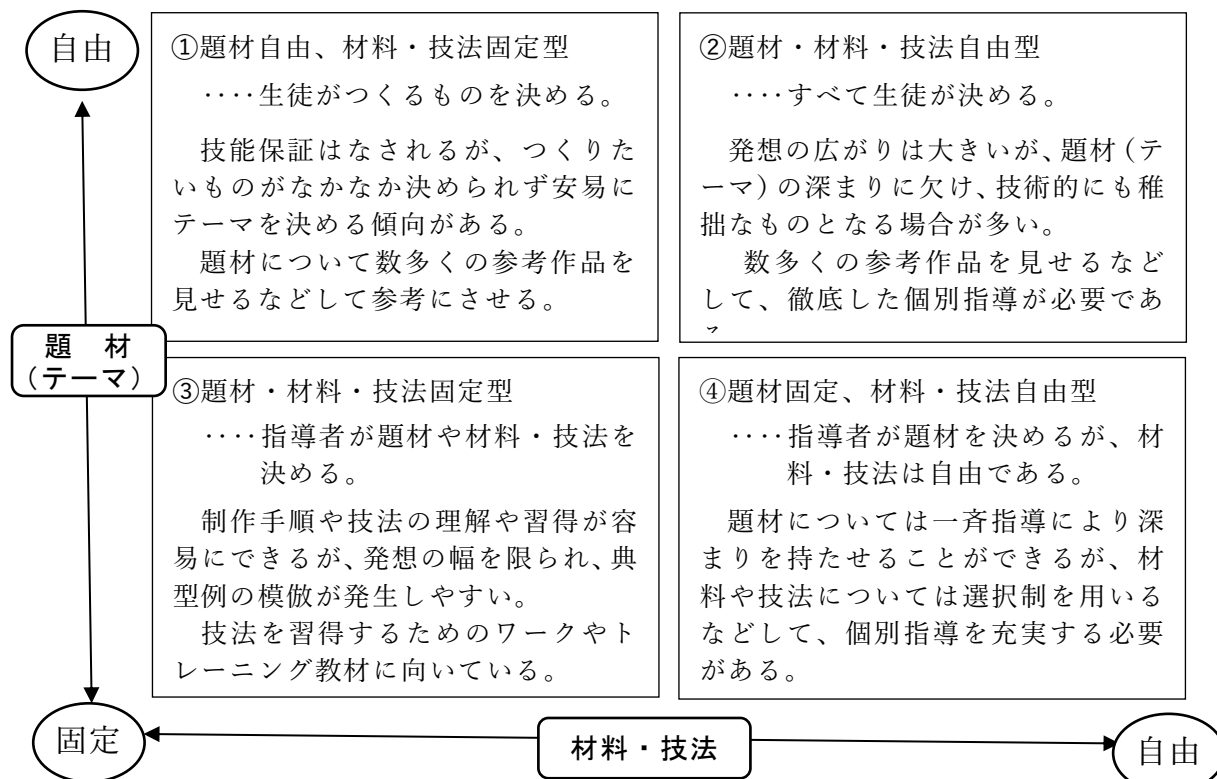


図 11 題材の自由度と指導

香川大学教育学部附属高松中学校研究報告第 1 巻・第 11 号 (1993) から (一部修正)

本授業で紹介した「酒井式描画指導法」は、典型的な「題材・材料・技法固定型」であり、これに限らず、指導者が〇〇方式というような指導による作品は、本授業で提示した高松市や観音寺市の児童の作品にも数多く見られた。

時間不足で確認することができなかったが、学生たちに気付いてほしかったことの一つは、特定の技法を身に付けさせるためのワークやトレーニング、エクササイズといった基礎練習の性格を持つ作品づくりでは、「題材・材料・技法固定型」で、小学校低学年での絵の具やクレヨン・クレパスの使い方に係る教材に見ることができることである。

次の作品は、いずれも小学校 1 年生の作品で、これらは色彩が際立つように、魚やカタツムリの形は教師が指定し、クレヨン・クレパスで順序よく並べて塗らせ、色彩の美しさを感じ取らせようとするものである。(色の順番は自由にしている)



図 12 「にじいろすいぞくかん」 観音寺市立観音寺小学校 1 年（左）
「おしゃれなかたつむり」 観音寺市立柞田小学校 1 年（右）

(2) 指導方法の柔軟な選択・運用

本研究授業では、「酒井式描画指導法」の是非について、私の考え方を学生たちに押し付けるものではない。あくまでも、図画工作科の授業を行うにあたって、指導方法に問題意識をもって教材開発に取り組んでほしいということである。

そこで本研究ノートを締めくくりに、「酒井式描画指導法」に対する私自身の考え方を、過去の私の論文から引用して述べたいと思う。

「描き方としての〇〇方式は誰も否定することはできない。批判の焦点は、すべての子どもたちが一律に同じ描き方をするという「描かせ方」にある。すなわち〇〇方式が、すべての学年や教材に通用する万能の法則ととらえるのではなく、観察して描く描き方の一つであると考えれば優れた方法であり、技術指導はもとより技術指導にとどまらない効果が期待できる。

今、求められるべきは、方法論の絶対化ではなく柔軟化である。（冒頭で述べた）クロッキーの 1 本線描法も三原色によって描くことも、子どものニーズにこたえる場面で提示されてこそ意義がある。

小学校高学年ともなれば、技術的などころに関心が向けられ、その関心は多岐にわたる。彼らがすべて同じ描き方を求めていることもないし、ある一つの描き方をマスターさせなければならない根拠も見当たらない。

教育現場で子どもたちに責任を負う教師としては、できるだけ多くの指導方法を身に付け、一人一人の子どもの個性（表現のタイプなど）や題材（教材）やその目的に合ったかたちで、技術指導の選択・運用を子どもたちの側に立って考え、それを使いこなす力量こそ大切なことだと考える。」

「香川大学教育学部附属高松中学校研究報告第 2 巻・第 3 号」（1995）

最後に、本研究授業に対する先生方のご助言やご指導、及び意欲的に授業を受講してくれた学生たちに心より感謝いたします。

引用参考文献

佐々木啓祐（1993 年）「創造的思考力を高める指導の在り方（第 2 報）」

香川大学教育学部附属高松中学校 研究報告第 1 巻・第 11 号

佐々木啓祐（1995 年）「個性・創造性教育を目指す美術科の技術指導の在り方」

香川大学教育学部附属高松中学校 研究報告第 2 巻・第 3 号

【資料 1】

2021 年度 教職実践演習（小）年間実施記録

高松大学 発達科学部

内容

- (1) 小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
- (2) 小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
- (3) 児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付けることができる。
- (4) 小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等をもつて高めることができる。

各回 2 コマ実施

回	実施日	テーマ	講師
1	4/17	社会性や対人関係能力に関する事項 No. 1 ① 教員に求められるマナーや社会性 ② 模擬面接	秘書科教員
2	8/25	小学校の教育内容の指導力に関する事項 No. 1 ① 小学校現場の課題把握 ② 小学校教員との交流	小学校訪問
3	9/29	教職を取り巻く現代的課題 No. 1 ① 本演習の目的と進め方 ② 幼小連携	幼稚園長
4	10/6	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 No. 1 ① 講話 ② 現職教員と学校現場の課題について討議	本校卒業生
5	10/13	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 No. 2 ① 講話	発達科学部教員
6	10/20	使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 No. 3 ① 行政関係職員との討議 ② 教育改革の動向（講和）	県教育委員会
7	10/27	社会性や対人関係能力に関する事項 No. 2 ① 不登校対策	高松市適応指導 教室訪問
8	11/10	社会性や対人関係能力に関する事項 No. 3 ① 保護者への対応 ② ロールプレイング	発達科学部教員
9	11/17	児童理解や学級経営等に関する事項 No. 1 ① 特別な支援を必要とする児童の理解（講話） ② 演習	発達科学部教員
10	11/24	児童理解や学級経営等に関する事項 No. 2 ① 学校、学級経営の理解（講話） ② 若年教員との懇談会	小学校訪問
11	12/1	小学校の教育内容の指導力に関する事項 No. 2 ① 小学校管理職との討議 ② 小学校図工	小学校長 発達科学部教員
12	12/8	教育内容の指導力に関する事項 No. 3 ① 新しい教育方法 ② 模擬授業	小学校教員
13	12/15	児童理解や学級経営等に関する事項 No. 3 ① 学級経営計画 ② 学級経営計画の作成	発達科学部教員
14	12/22	教育内容の指導力に関する事項 No. 4 ① 電子黒板の活用	高松市総合教育 センター訪問
15	1/12	教員に求められる資質・能力 ① 求められる教師像 ② まとめ	発達科学部教員